

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)  
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: Investigating the association between parental educational status and offspring obesity risk using the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 親の教育水準と子供の肥満リスクとの関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 神奈川ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Pediatric Obesity

年: 2025 DOI: 10.1111/ijpo.70019

筆頭著者名: 野田 雅裕

所属 UC 名: 神奈川ユニットセンター

目的:

これまでの研究では、経済的に豊かな国では所得水準と小児肥満との間に負の関連があり、両親の教育が重要な要因であることが示唆されている。しかし、アジア諸国においてこの課題に関する研究は少ない。そこで、本研究では日本の親の教育水準と子供の肥満との関連性を調査する。

方法:

親の教育歴は、両親ともに低学歴(LM-LF)、母親は高学歴で父親は低学歴(HM-LF)、母親は低学歴で父親は高学歴(LM-HF)、両親ともに高学歴(HM-HF)の4つのグループに分類した。多変量ロジスティック回帰分析により、4歳児における親の教育歴と過体重/肥満との関連を分析した。

結果:

4歳児は LM-LF 群、HM-LF 群、LM-HF 群、HM-HF 群でそれぞれ 17.9%、16.9%、16.2%、15.4%が過体重/肥満であり、5.5%、4.6%、4.4%、3.8%が肥満であった。参照群を HM-HF の両親から生まれた子どもと定義した場合、LM-LF 群、HM-LF 群、LM-HF 群における過体重/肥満の調整オッズ比は、それぞれ 1.13(95%信頼区間[CI]: 1.06-1.21)、1.08(95% CI: 1.01-1.15)、1.03(95% CI: 0.95-1.12)であった。肥満に対する調整オッズ比は、それぞれ 1.34(95%CI: 1.20-1.50)、1.16(95%CI: 1.04-1.31)、1.11(95%CI: 0.96-1.28)であった。

考察(研究の限界を含める):

本研究では、両親の教育水準の低さが、4歳児の過体重/肥満および肥満と関連しており、過体重の子供よりも肥満の子供で強い関連が認められた。さらに、これらの関連は、過体重/肥満の母親の子供の方が、過体重/肥満でない母親の子供よりも顕著であった。これらの結果は、回帰モデルを世帯収入、母親の併存疾患、妊娠合併症で調整しても変わらなかった。本研究の限界として、遺伝因子などの未測定交絡因子があることが挙げられる。また、不健康な食物摂取など、子どもの過体重や肥満に影響を与える可能性のある潜在的媒介因子も考慮する必要がある。

結論:

日本では、親の教育水準の低さが、4歳児の過体重/肥満と独立して関連していた。小児肥満予防のためには、教育水準の低い親に焦点を当て、家族単位での行動変容を促進する必要があるかもしれない。